

2011年度

科目名	認知心理学				
担当教員	中尾 将大				
配当	人社3			コード	44064
開期	前期	講時	木曜日4限	単位数	2
授業テーマ	ヒトの記憶と言語の働きを考える。				
目的と概要	ヒトには極めて高度なコミュニケーション能力が備わっている。これによって情報や感情のやりとりが可能になっている。このような能力は言語や記憶、そして知識などいくつかのサブシステムによるもので、これらが互いに連係しながら日常の情報伝達を支えている。本講義ではこの言語・記憶・知識などについて日常例を交えながら情報科学的な視点に立って考察する。				
成績評価法	平常点(20%)およびレポートもしくは試験(80%)による総合評価				
テキスト	内容に合わせてプリントを配布				
参考書	浮田潤・賀集寛 編著 言語と記憶 培風館				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	受講者数が少ない場合、ゼミ形式を取っています。色々なディスカッションになりますので自ら考え、そして自分の意見を相手に分かりやすく伝えるという姿勢を望みます。時々受講者を当てて、意見を述べて貰うこともあるのでよく話を聞いて考えるようにしてください。準備学習として参考図書を始め、認知心理学関係の図書に目を通しておくことが望ましい。				
講義計画					
第1回	オリエンテーション	ー授業の説明ー			
第2回	情報伝達	ーコミュニケーションとはー			
第3回	ことばとことば（1）	ーことばの習得ー			
第4回	ことばとことば（2）	ーことばの特質ー			
第5回	ことばのはたらき（1）	ー文の成立ー			
第6回	ことばのはたらき（2）	ー言外の意味　メタファーー			
第7回	ものを覚えること（1）	ー記憶の区分ー			
第8回	ものを覚えること（2）	ー符号化のメカニズムー			
第9回	ものを覚えていること（1）	ーカテゴリーと体制化ー			
第10回	ものを覚えていること（2）	ースキーマ理論と表象システムー			
第11回	ものを思い出すことと忘れること（1）	ー検索と忘却のメカニズムー			
第12回	ものを思い出すことと忘れること（2）	ー記憶の変容と日常の記憶ー			
第13回	ことばが失われるとき（1）	ーことばの障害ー			
第14回	ことばが失われるとき（2）	ー記憶の障害ー			
第15回	まとめ				